

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」<sup>ほうそうげんこう</sup> 放送原稿（8月30日（金）放送分）

## テーマ 新着図書紹介

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様，おはようございます。<sup>かごしまけんりつあま</sup>鹿児島県立奄  
<sup>みとしよかん</sup>美図書館です。

今朝は，<sup>あまみとしよかん</sup>奄美図書館の新着図書についてご案内します。

まずは，一般書のご案内です。

「自分の気持ちがあまく伝えられない」「話そうとすると緊張してしまう」「場をうまく  
<sup>なご</sup>和ませられない」などコミュニケーションに悩んでいる人はいませんか？劇団「第三舞  
<sup>しゆさい こうかみしようじ</sup>台」主宰の鴻上尚史さんの『コミュニケーションのレッスン』は、「コミュニケーション  
は技術」という視点から，どうやったら，コミュニケーションのレベルが向上するかを伝  
え，練習方法をアドバイスしている本です。30年間，演出家をやりながら，ずっとコミ  
ュニケーションに関して考え，実践してきたことが書いてあります。コミュニケーション  
はスポーツと同じように，やればやるだけ上達するそうです。ぜひ，みなさんもこの本を  
参考にしてみてください。

2冊めは，昨年『鍵のない夢を見る』で直木賞を受賞した，<sup>つじむら みつき</sup>辻村深月さんの『島はぼく  
らと』です。物語の舞台は，瀬戸内海に浮かぶ小さな架空の島「冴島」。<sup>さえじま</sup>母と祖母の女  
三代で暮らす，伸びやかな少女<sup>あかり</sup>朱里。美人で気が強く，どこか醒めた網元の一人娘<sup>きぬか</sup>衣花。  
父の自然愛好的な生活スタイルに巻き込まれ，東京から連れてこられた<sup>げんき</sup>源樹。熱心な演劇  
部員なのに，思うように練習に出られない<sup>あらた</sup>新。島に高校がないため，4人はフェリーで  
本土に通っています。島を旅立つ人，送り出す人，新たに島を故郷とする人。島を出て  
行く季節を迎えた男女4人の眩しい<sup>まぶ</sup>故郷のそれぞれの想いが描かれた温かい作品となっ  
ています。

次に，児童書をご案内しましょう。

1冊めは，こさかまさみさんの『おばけのクリリン』です。クリリンは幼稚園に住んで  
いるどんぐりのおばけです。いつも，幼稚園の子どもたちと一緒に体操をしたり，お遊戯  
をしたりしています。ですから，幼稚園の子どもたちと同じように，なんでも上手にでき  
るのです。しかし，クリリンは，幼稚園の子どもたちが，おばけの自分の姿を見たら怖が  
るだろうと思って，いつも姿を隠しています。それでもクリリンは，幼稚園の子どもたち  
が大好きなので，先生や園長先生や子どもにばけたりして，子どもたちと遊んでいます。

遊んでいるうちに、ついつい、おぼけにしかできないすごいジャンプをしたりしてしまうこともあります。そういうことで、幼稚園の子どもたちの中には、あやしいものが幼稚園にいるのではないかと感づいている子も出てきました。そして、あるときクリリンが、みんなにおぼけの姿を見られてしまう事件が起こります。でも、子どもたちは怖がるどころか、好奇心をかきたてられてしまいます。さてクリリンはどうなるのでしょうか。

2冊めは、ジェニー・スー・コステキ＝ショーさんの絵本で『わたしのすてきなたびする目』です。ジェニー・スーは、左目が斜視しゃしの女の子。友達から、からかわれることもあるけれど、本人はぜんぜん気にしません。右目は私の案内役。数字を読んだり、地図を見たりする。左目は、芸術家。色を見たり、冒険に出かけたりする。右目と左目はふたつ一緒ですばらしいチームになる。と気に入っています。でも、そのままにしておくと、視力が育たないといわれ、目医者さんに行って治療することになりました……。

作者の子どもころの体験をもとにしたお話になっています。「人と違うこと」を楽しく肯定的にとらえた、個性あふれる絵本です。

最後は郷土に関する本のご案内です。

島尾しまおミホさんの『海辺の生と死』です。この本は、昭和49年そうじゆしやに創樹社から刊行され、翌年に第十五回田村俊子賞たむらとしこを受賞した作品です。その後、中公文庫に収められましたが、今回、文庫本として復刊されました。幼い日、夜ごと、子守歌のように、母がきかせてくれた奄美の昔話。南の離れ島の暮しや風物した。慕わしい父と母のこと。記憶の奥に刻まれた幼い時の思い出と特攻隊長として島に駐屯した夫、島尾敏雄との出会いなどをひたむきな眼差まなざしで、心そのままに綴られています。息子の島尾伸三しまおしんぞうさんの写真を使用した新カバーに、梯かけはしくみこ久美子さんの解説がついています。

なお、当館「島尾敏雄記念室」には関連図書も多数揃っていますので、ぜひ、手にとってご覧ください。

まだまだ暑い日が続きますが、どうぞ図書館でゆっくり読書をお楽しみください。

かごしまけんりつあまみとしよかん  
鹿児島県立奄美図書館でした。